

世界展開力強化事業 長期留学 第3回報告書

(メキシコ合衆国チャピngo自治大学)

2018年2月28日

東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科4年 岡田哲也

渡航後半年が経過した現在の生活・学習状況を以下の通り報告する。

◎生活・授業

2月の初旬に他の日本人留学生は全員帰国してしまったため、現在は日本人は学内で一人という状況で生活している。少しばかりの寂寥感はあるものの、築いてきた現地交友関係のおかげもあり、何不自由なく過ごせている。むしろ日常で母語を使う機会が格段に減ったため、学習に集中することが出来ていると思う。体調に関しても良好で、周囲から聞いていたのとは裏腹に1・2月はかなり暖かく、時折降雨もあり、春と雨季の訪れを感じている。

授業は後期になったことで履修・聴講授業の計画を立て直した。今学期はどこの学部も昼過ぎくらいには授業が終わるようなカリキュラムになっており、朝が早いことが多いが、その分午後の余暇を充実させることも可能となった。現在は3学部にまたがって興味のある授業を取っている。時間割は以下の通りである。

- ・月曜⇒Policultivos tradicionales(8:00-10:00)
Desarrollo de las estructuras agrarias en México(10:30-12:00)
Bases ecológicas de la agricultura sustentable(12:00-14:00)
- ・火曜⇒Modelo de desarrollo(8:30-10:00)
Producción de flores de corte(10:30-12:30)
部活 (20:00-22:00)
- ・水曜⇒Tecnología para el manejo agroecológico del agua y la energía(7:30-9:30)
Desarrollo de las estructuras agrarias en México(10:30-12:00)
- ・木曜⇒Modelo de desarrollo(8:30-10:00)
Frutales caducifolios(11:00-13:00)
部活 (20:00-22:00)
- ・金曜⇒Producción de oleaginosas(9:00-11:00)
Producción de hortalizas de hoja, tallo e inflorescencia(11:00-13:00)
- ・土日⇒休日

Fitotecnia(植物生産技術学科)の授業に参加し始めたことで、チャピngoが所有している広大な農地で実習する機会が増えている。Agroecología(農業環境学科)も独自の畑を持っているため比較するのも興味深い。Sociología Rural(農村社会学科)での授業は学期末に研修旅行として8日間に渡り南西部の州に行くことにもなっており、楽しみである。まだ後期は始まったばかりだが、新しい学びの場を存分に活用していきたい。

◎調査・フィールドワーク

前報告にも述べたように1月の半ばあたりまでは卒業論文研究の調査地候補の農村で、現地先住民の人々と共同生活を送っていた。村や人を紹介してもらった知人(初訪問時に知り合った)は仕事で忙しくしていたため、個人で**Santiago Tlaxco**という村に赴き受け入れ家庭を探した。頼み歩いた結果、9歳と4歳の息子を持つ33歳の夫婦の家で生活することとなった。自分の部屋を与えられ、食事は主に親戚の家で頂いていた。その中で知った地域の情報を、ここでは特に自然・農業・食生活面について簡略的に報告する。

- ・標高1400m、人口約1700人、約370軒の家屋、電気・水道・トイレは95%以上、ラジオ・テレビは60%以上の普及率。住民の約99%が先住民。水資源に関しては、年間を通して雨が降る地域であり、12・1月は60~70mm程度の降水量であるが、ダムや滝は枯渇すること無く流れていた。雨季には小さな滝や川がいくつも形成されるらしい。滞在期間中は毎日のように夕方頃から濃霧が発生し、少し先の視界すら断たれるほどの状況であった。

- ・四方を山に囲まれている小さな地域であり、一日もあればほぼ全ての地域を見て回ることが出来る。土地は基本的に斜面ばかりで、作物は傾斜のある農地に植えられているのが普通。また各農地も概して面積が小さいので機械の導入は一切ない。

- ・トウモロコシがやはり最も多く栽培されており、大半はトルティーヤにして自家消費される。2、3月に播種し、収穫は8月。次いでフリホール豆やコーヒー豆の栽培が広く行われている。前者はまた自家消費用だが、コーヒーは販売用がメイン。ちょうど収穫の時期だったので手伝いもした。過去には自家消費もかなりしていたが、化学肥料による健康への影響があり、30~40年前あたりから販売だけを主にするようになった。現在も栽培に肥料は必須らしい。相場にもよるが、1kg6~7ペソ(約40円)で取引される。

- ・トウガラシの栽培も村内で需要が多いため盛ん。12~2月に播種、5月に収穫。他にはアボカド、トマト、タマネギ、オレンジ、ライム、グレープフルーツ、バナナ、モモ、ナシ、サンザシ、lulo(トマトに似た酸味のある果物)、コリアンダー、quelite(アカザ科・ヒユ科の食用葉)などが栽培されているが、その多くは時折雑草を取る程度で自然放置の状態で育てている。落花生も日本と同じようなおつまみ感覚でよく消費されており、価格は250gで9ペソ(約60円)。

- ・家畜は販売用だとヒツジが圧倒的に多く、ニワトリやブタも飼育されている。ニワトリに関しては放し飼いのような形になっていることもあり、ブタは利率が高いが手間や費用がかかるためそこまで多くは見られない。移動用にはウマやロバが飼われている。

- ・乗合バスやタクシーが走る主要な道路はコンクリートだが、それ以外は未舗装の砂利道ばかりで車が通れないほど細いものも数多くある。そのための家畜だが、車を買えない代わりに所有しているという経済的条件も関係している。道は高低差を短縮したりするのにも便利で、各住宅に効率的に繋がっている。

- ・ガスはあるものの今だに薪の使用率は高く、ほとんどの住民が自分で伐採している。山に行くこともあるが、敷地内に樹木を持っている場合もある。ocote(テオコーテマツ)は住宅用、encina(カシ)は薪用と使い分けている。切り株になる部分まで切ってあとは自然再生するのを待つため、植林などすることはまず無い。

- ・お世話になっていた家族の親戚である年配の男性がこの地域で一番広い土地を持っている人物で、植え付け前の準備として焼き畑と鍬で畑を耕す作業を手伝った。山に生えているキノコの採集にも同行した。土地は広大で畑にしているのはごく一部。それでも到底一人での作業は不可能なため、農繁期は30~40人ほどを季節雇用するらしい。

・アルコール飲料は国内ビールがいくつか流通しているのと、refinoというサトウキビ原料のラム酒のような蒸留酒、tepacheというトウモロコシと様々なフルーツを発酵させて作られる酒などが一般的に飲まれている。

・食生活は大量のトルティーヤで肉(鶏肉がメイン)や豆、その他野菜などを包んで食べるタコス式が普通で、食料だけは十分に生産・消費できる環境が整っているため、生活レベルに反して肥満体型の住民が老若男女問わず非常に多い。加えてアメリカから持ち込まれたコーラやペプシに代表される炭酸飲料の消費も凄まじく、肥満化に拍車をかけている。その影響か糖尿病になる住民が近年増大しているとも聞いた。

・近年教育環境が充実してきた若者たちの間では、農業は食料生産のサイクルを繰り返すだけで金銭の余剰がほとんど無く、儲からない、年寄りがやるものだとの認識がなされている。また、農業とは関連のない専門性を教育機関で身に付けた現代の若者は、あえて地元に戻り農業に従事したいとは思わない。その場合、農業離れは加速し耕作放棄地か他の産業に利用されるような土地が増加する可能性があると感じた。

今回の滞在で多くの学びや発見があったため、この一地域に絞って卒業論文研究の調査を進めていきたいと考えている。その後は後学期が始まり正規履修の授業も受けるようになったことで、調査地には赴けていないが、来月後半のSemana Santaの連休に一週間ほど、また訪れることを計画している。

◎出来事

●オアハカ観光

後学期が始まるまでの間に、以前より興味があったオアハカ州に赴く機会を得たので、友人に会う傍らに観光もしてきた。あまり時間はなかったので、州都と近辺の世界遺産に登録されている遺跡の見学など急ぎ足で回った。中でも高さ400mの盆地の頂上に築かれたモンテ・アルバン遺跡は印象深かった。サポテカ文明が繁栄していた紀元前500~800年頃という当時の様子を思わせる、厳かな雰囲気をつぶりと感じた。

●メキシコシティ観光

1月末の休日に、友人たちに誘われてメキシコシティに遊びに行った。普段一人で来ることはまず無いため、有名なソカロやメトロポリタン大聖堂、テンプロ・マヨール遺跡など定番の観光スポット盛り沢山でいろいろ場所へ連れて行ってくれた。特にラテンアメリカタワーという、建設当初(1956年)はラテンアメリカで一番高かったビルがあり、44階の屋外展望台から見る景色は、市街だけでなく遠くテオティワカンや空港まで見渡せて、美しかった。

●ストライキ

前学期も同様のことが幾度もあったが、後期開始早々、チャピング自治大学の労働者組織(STAUACH)による賃上げなどを求めたストライキが行われた。大学当局との合意内容が全く遵守されていないとして、2月13日には大学に入るための門を全て封鎖し、学生しか出入りできないようにされた。その影響で今月はほとんど授業を受けることができなかった。休講になった範囲も構わず期末試験などに出題されるため、多くの学生も不満を漏らしていた。

●バレンタインデー

メキシコのバレンタイン(Día de San Valentín)は愛と友情の日とされ、恋人はもちろん友人同士でも花(特にバラ)やチョコレート、洋服、アクセサリなどを贈り合う。一説によるとレストラン業界は売り上げが通常時の約70%伸びると言われている。市街地に赴いた際は、大きな風船やぬいぐるみの贈り物が目立っていた。また当日はカトリックの灰の水曜日(el Miércoles de ceniza)

という、断食と贖罪の前に魂を清める日と、1945年以来初めて同日に重なったという。そのため額に十字架のスタンプをした人々もたくさん見られた。

●ミチョアカン観光

ストライキのために時間が出来てしまったため、フランス人留学生たちに誘われて、ミチョアカン州に旅行に行った。州都のモレーリアはもちろん、美しい湖と先住民文化が印象的なパツクアロ、有名なモナルカ蝶保護区のアンガングエオなど数都市を、安宿を転々としながら観光した。コロニアル調の町並みや豊かな自然に囲まれ、とても落ち着いた日々となった。どこも見どころ満載であったが、個人的にはパツクアロやその湖に浮かぶ島々でタラスコ族(プレペチャ族)の生活の一端を知ることが出来たのが特に心に残っている。

◎最後に

帰国日が決定し、こちらでの生活も残す所あと半分も無い。与えられた日々を無駄の無いよう過ごし、どんな事にも積極的に挑戦して自分の中の様々な部分の成長に繋げていきたい。また、日本では新学期がもうじき始まるということで、復学後や就職活動についても立ち止まらずに進めるように、並行して自分の考えを深めていこうと考えている。



